

19年度下期「なら県民電子会議室」キックオフ大会議事録

1. 日時:平成19年10月6日(土曜日) 13:30～17:00
2. 場所:奈良市北部会館 3階 第2、3会議室
3. 出席者:奥家孝彦、小山正樹、中川祐介、峠 春樹、大西 弘、大矢智子、
阪本安平、谷口 実、鉄田憲男、藤野正文、掘真寿美、三宅基之、
山田順一、遊津隆義、多田充朗、木村新一、寺村 聡、木谷延高、
前川治治、
オブザーバー:4名
4. 議題:
 - ・第1部 第8回運営委員会
 1. 委員長挨拶
 2. 運営委員の紹介(新委員)
 3. 県の取り組みについて(県広報報課)
 4. 19年度上期電子会議室の報告(コーディネーター、事務局)
 5. テーマの説明(県出前トーク)
 - ストップ温暖化を考える(奈良県生活環境部環境政策課 課長補佐 荒川隆行氏)
 - 世界に開かれた奈良づくり(奈良県企画部観光交流局文化国際課 課長 中山悟氏)
 - ・第2部 懇親会(於:讃州うどん荘 かな泉)

5. 議事の経過の概要

・第1部 第8回運営委員会

(1)委員長挨拶

「なら県民電子会議室」も1年を経過し、コーディネーター、関係者の労に感謝する。
下期は新テーマのもと、2年目に入るが、継続は力ということで、見えてきた課題に
取り組み、積み上げて行くことにより更に発展してゆく。殊に、本会議室は県の補助事業
として、県とNPOの協働作業により、旨く行っている事例として注目されており、引き続き
県の支援をお願いする。

(2)運営委員の紹介

新任の運営委員4名の紹介があり、出席の3名の委員から自己紹介と挨拶があった。
事務局から出席できなかった1名の委員の紹介があった。

(3)県の取り組みについて(県広報報課)

本会議室の運営関係者の協力に対してお礼を申し上げます。昨年11月から運営を開始
したが、他県では県の直営でなされ、その多くが悪質発言から休止、廃止に追い込まれ、
余り成功事例がない中、本県は県とNPOの協働事業という他に事例のない取り組みを行い、
まじめで、質の高い取り組みができていると考えています。

- ・テーマ設定: 県各部局からの推薦テーマ案とそれ以外の提案テーマ案を運営委員会で審議し、設定。
 - ・県の情報提供: コーディネーターの要請等により、必要情報を提供。
 - ・提案の施策への反映: 詳細報告に基づいて、関係部課に通知し、住民意識、施策企画の参考に供している。提案事項については、担当課から回答を得て、県の方向性をホームページに掲載。
 - ・県とNPOの協働の特色を活かした試行錯誤を続けて、従来の審議会や公聴会とはまた違った民意の吸い上げの可能性へと発展させたい。
- 質疑) 県部局、職員の閲覧、議論参加の状況はどうか? 関連事業についての認識の修正や議論を前向きに進める参加を望む。
- ・テーマ推薦した部局では関心が高い。それ以外では関心の度合にばらつき。公聴会等とは違い、厳しい意見や本音の意見が聞けるという捉え方もある。県部局あるいは職員の立場で議論参加が難しい場合もあり、一個人としての参加を促して行きたい。

(4)19年度上期電子会議室の報告(コーディネーター、事務局)

(4-1)テーマ1:自分達でできるまちづくり:詳細別紙(コーディネーター)

- ・会議室参加者:23名、発言数:124件
 - ・提案:投稿、議論内容を整理し、次の5項目をまとめた。
 - 県内のまちづくり情報などの発信の充実(まちづくり情報センター)
 - まちづくりに関する相談が可能な総合的窓口の設置(まちづくり相談窓口)
 - 身近なまちづくりを支援する専門的知識を有するボランティア、コーディネーターなどの養成、派遣制度(まちづくりお手伝い隊)
 - 観光客を楽しませる、お客さんをもてなす伝統的なお祭り、イベントの復興支援等(もてなしまちづくり支援)
 - 防災をキーワードにしたまちづくり活動支援(防災まちづくり)
 - ・所感:

「まちづくり」は広範な課題や展望を包含しており、そのとらえ方も多様であることが確認できたと共に、「自分たちでできるまちづくり」そのものの内容も多種多様であることを考え直す機会となったと思う。

投稿について、直接まちづくり活動を行っている方や若者の参加が少なかった。もっと幅広い参加を促すには、もっと気軽に投稿できる工夫や投稿内容を整理する必要があったように思う。今後の参考にしてもらいたい。
- ##### (4-2)テーマ2:みんなで教育について語ろう:詳細別紙(コーディネーター)
- ・会議室、発言数:360件
 - ・(1)[理念]「学校」ってなんだろう(2)[現状把握]「学校」あるある大辞典(3)[求める姿]

こんな「学校」がいい(4)[方法論]地域で子供を育てる実践の順で議論を進め、自由な投稿を促すべく、投稿の分類、情報やデータの提供を行い、考える材料が多くなるよう工夫した。

・提案:投稿、議論内容を整理し、次の5項目をまとめた。

学校支援地域本部を積極的に設置する。

PTA や学校に向けた学校支援地域本部の設置研修会を行う。

ネットワーク型授業(よのなか科の授業)をカリキュラムに導入する。

地域のリソースを学校教育に注入するための検討会「産業教育研究会」を設置する。

学校経営に関する管理者向け研修会(人事交流も含めて)を積極的に行う。

・所感:

今回議論を絞り込んだ「地域ぐるみで学校をつくる」という設定は、公立学校改革のトレンドになっている。当該会議室の議論が県民への学校教育活動への関心を喚起し、地域をあげて公教育を後押ししていくための啓発の一環として位置づけることは意義があった。議論を整理し、参加をやすくすべく、RVPDCA マネージメントサイクル手法を会議進行に導入し、話題を実践に基にするよう心がけた。しかし全体として電子会議室への書き込みの広がりは見えず、不特定多数の県民を対象にした電子会議室の運営の難しさが際立った。学校の教育活動の実践をほとんど知らないため、書き込みできない、意見を出不せないといったことが影響していると思われる。「実践を基に会議」という拘りが影響した可能性も高く、今後の課題である。是非、近くの学校を気軽に訪問し、校長さんなどの話を聞いてもらう、或いは通りすがりのちょっとした印象など、気軽に投稿してもらえたらと思う。しかし、今回出された意見は具体的であり、より深いものになっており、この電子会議室の仕組みがより発展的に活用されることにより、時代に合った地域における子育ての共同性を回復する道筋が見え、子どもを地域で育てるために大人が力を合わせる教育コミュニティづくりによる地域の再生に一步でも近づいてゆくことを願っている。

(4-3)テーマ3:奈良の観光戦略について考えよう:詳細別紙(コーディネーター)

・会議室参加者:33名、発言数:398件

・前期テーマの「奈良の魅力の大発見」を引き継ぎ、観光振興に的を絞って意見を募った。

・提案:投稿、議論内容を整理し、次の15項目をまとめた。

地場産の農畜産物を購入しやすい仕組み作り

この会議室で出てきた各意見についての県の評価

海外論調の把握、外国語ページの充実

道路標識や案内板が不親切、充実した地図やパンフレットも必要

奈良観光のモデルコースの設定

観光3団体の連携が必要

知事公舎の迎賓館化

奈良「ランドオペレーター」構想

バーチャル・リアリティによる平城宮跡の復元(幻視)

県庁の移転と跡地のホテルへの転用

正倉院展宝物のレプリカ（模造品）展

奈良美観都市宣言

投稿方法の改善

奈良観光振興への提言

B&B(Bed and Breakfast 宿泊と朝食のみの施設)による誘客

・所感:

具体的な提案、提言を求めるよう努めたが、観光に係わる専門家や有識者の投稿参加を得て、議論が深まり、地に足の着いた意見交換ができた。奈良を愛する心が感じられる投稿が多く、県の施策に反映して頂きたいと願う。

運営面で、6ヶ月通しでの「まとめ」は負担が大きく、3ヶ月で一旦区切りを設けた方が、まとめ易く、分かり易いのではないか。投稿に際しての登録、事前査読の運営の見直しも検討事項と思う。

今後の課題としては、引き続きこの会議室の県民への周知に努め、会議室の運営委員、県担当部署職員、観光や文化の専門家にも閲覧、投稿願ひ、実りのある議論ができるような素地を作り上げることが重要と思う。

(4 - 4) 登録・投稿・アクセス数集計(事務局)

・この6ヶ月、アクセス数:22,672、登録者数:127名、投稿者数:53名、投稿件数:882件

・真面目な投稿ばかりで、専門知識や実務に明るい議論が多く、充実した内容であった。

シニア世代の投稿も多かったようで、疎遠だった地域活動にどのように参加したらよいかとまどいも見受けられるが、教育支援など地域活動への期待は強くなってきている。

これらの動機を引き付ける必要があるが、それは県民の目線にあった施策にある。

一方、よりよい電子会議室にするための課題として、

アクセス数、登録、投稿者を増やす施策

広報活動の強化

また、県への要望として、

県職員の参加、 広報活動、 県の施策への反映

の協力、支援をお願いしたい。

(5) テーマの説明:

19年度下期のテーマ案

ストップ温暖化を考える(家庭・地域から温暖化防止の取組みを拡げよう)

世界に開かれた奈良づくり(海外への奈良の情報や外国人観光客の誘致など)

みんなで教育について語ろう(子どもを育てるための家庭・学校・地域の連携)

(県出前トーク)

ストップ温暖化を考える(奈良県生活環境部 環境政策課 課長補佐 荒川隆行氏)

京都議定書の発効を受け、奈良県もストップ温暖化県民会議を立ち上げ、奈良県地球温暖化防止地域推進計画として「ならストップ温暖化アクションプラン」を推進中である。

これが内容(詳細別紙リフレット)及びエコな～ら大作戦/私もできるストップ温暖化(詳細別紙リフレット)について説明頂いた。

世界に開かれた奈良づくり(奈良県企画部 観光交流局文化国際課 課長 中山 悟氏)奈良県の国際観光推進に向けた取り組み中で外国人観光客の誘致の取り組みに焦点をあて(詳細別紙レジメ)説明頂いた。また、国際交流、文化振興の取り組みの一環の国際文化フォーラム、シャガール展、正倉院展の紹介があった。(詳細別紙リフレット)

・講演後の質疑応答で、多くの意見、提案が出されたが、これを含め今期の電子会議室テーマの中で議論が深まることが期待された。

みんなで教育について語ろうは前期からの継続テーマとして取り組む。

・以上、審議の結果、19年度上期電子会議室報告を了承すると共に、提案の3テーマにて19年度下期電子会議室を推進することが満場一致で承認された。

・第2部 懇親会(於:讃州うどん荘 かな泉)

参加者:19名。

・談論風発、率直な意見交換と共に、今後の電子会議室のさらなる発展に向けての支援と協力を確認し合った。

以上。